

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中 報告日 2020年2月18日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	岐阜県立郡上北高等学校	代表者名	後藤 敦
担当者部署	進路指導部	連絡先電話番号	0575-82-2073
担当者役職		担当者氏名	
		連絡先E-mail	
住所	501-5122 岐阜県郡上市白鳥町為真1265番地2		

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

団体名	郡上市教育委員会	連絡先部署	学校教育課
担当者氏名		連絡先電話番号	0575-67-1468
		連絡先E-mail	

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	濱田 真輔
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	打ち合わせにおいて学校側の要望を最大限に取り入れつつも、改善策を提案していただき安心して事業を実施することができた。事業中には、生徒の指導に慣れており、中学生・高校生が主体的に活動できるように臨機応変に声かけなどなどをして下さる姿が見られ活発な意見交流が行われた。本活動を通して、生徒が成長を実感できた。事業後には、来年度以降の展望にも助言をいただくことができ、中学校・高等学校という校種の壁がありながらも意思統一ができた。
アドバイザーへの要望事項	来年度以降も継続的にご指導いただき、生徒の変容を学校側とともに見届けて欲しい。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2020年2月13日	8時30分	17時00分	60	450
3-2. 派遣場所	会場名	郡上市立白鳥中学校		最寄駅	美濃白鳥駅
	所在地	岐阜県郡上市白鳥町為真1265番地			
	最寄駅からの交通手段	徒歩もしくはタクシー			

### 4. 報告書についてのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】 岐阜県立郡上北高等学校・郡上市立白鳥中学校・両校の教員	人数 140人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	中学校と高等学校の日課表が異なるために時間割を合わせなくてはならない。その他、中高連携の枠組みを活かした取り組みは継続的に進めることでより効果が得られると考えられるため、来年度以降も実施することを前提に計画を立てていく必要がある。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	今回の講座によって、中学生の防災に関する意識は醸成され、高校生はファシリテーターの役割を学び、中学生の意見から刺激を受けた。防災をテーマとした課題探究型学習だけでなく、地域の一員という当事者意識をもち、地域に貢献するためにはどうすれば良いかを考えるきっかけになった。今後、郡上市の中学生・高校生が参加する地域をテーマにした課題探究型学習「郡上学」において、探究の質の向上させることが期待できる。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	講座の最初に、アドバイザーの経験をもとに作成されたパワーポイントを観て、災害はいつでも起こること、そして災害が起きた時に、人は光と情報を求めるという話を聞いた。事前学習で学んできたプリントを渡していたので、その内容をもとに「大切なベットの避難所に連れていけるのか」「避難所の物資はどのように届けられて、何が必要とされるのか」など生徒に声かけをした。最終的に、マニュアルを作成して満足するのではなく、臨機応変に動くことが重要であるというメッセージが伝えられた。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	中学生はこれまで総合的な学習の時間で課題探究型学習に取り組んだことが無いため当初は戸惑う姿が見られたが、高校生の支援でKJ法を用いた意見交流ができた。また、最後の発表では考えたことを自分の言葉で述べることで、教員間の意見交流では、もし災害が起きたときでも、これまでは支援を受けて当然という生徒が多かったが、今後は何が必要なのかを考え主体的に動くことができるのではないかという期待の声が聞かれた。本事業は、白鳥中学校の教員10名、郡上北高校の教員6名、郡上高校の教員1名が参観し、教員のスキルアップにつながった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑦その他 1時間における生徒の変容を感じることはできたが、来年度実施されるGood郡上プロジェクトの提案の質的な変化で検証したい。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	現在中学2年生の生徒が3年生の総合的な学習の時間で取り組む課題探究型学習(=郡上学・Good郡上プロジェクト)を、本校1年生の総合的な探究の時間で取り組む課題探究型学習と接続していくこと。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 中学は抽出した生徒のコメントを下記に掲載、高校は感想を添付(薄い文字のものは除く)。 ・先輩と一緒に災害があったときのことを考えられた経験をいざというときに活かしたい。 ・普段考えることがないことを交わる機会の少ない高校生と話合う経験ができたことが良かった。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	来年度以降、中学校と高等学校の総合的な学習(探究)の時間を接続し、2校合同で郡上市の防災に関する課題解決策を提案したい。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



2月14日中日新聞中濃版

**白鳥中で防災学習 郡上北高生手助け**

郡上市白鳥中学校で十三日、「防災に関する課題解決型学習」と題した授業があり、郡上北高校（同市）ビジネスコースの生徒らが後輩を手助けした。

白鳥中の二年生三十二人と郡上北高の二年生二十五人が参加。全体が六班に分かれ、総務省地域情報化アドバイザー浜田真輔さんの授業を受けた。

浜田さんは東日本大震災の被害を記録した映像を示しながら、災害がいつ起きても対応できる準備と心構えが必要だと強調。各班を避難所運営に当たるスタッフとし、どのような支援物資に重点を置いて要求するか検討するよう求めた。

各班は指導者役の高校生を中心に話し合い、避難所に必要な物資の種類を食料や生活必需品、感染症予防、情報収集などに分けて整理。一つ一つの品目を書いたメモを模造紙に貼り付け、優先度が分かるようにした。生徒たちは非常時を想定して意見を交わし、最後に検討内容を発表した。

浜田さんは「大きな災害があれば、みなさんは避難所運営の即戦力になる。緊急時は行動しながら考え、最悪の事態にも対応してほしい」と語りかけていた。

（中山道雄）

**避難所運営話し合い**

災害時の避難所運営について学ぶ生徒たち＝郡上市白鳥中

**ごよみ**  
15日  
(旧1月22日)  
日 出 6:40  
日 入 17:34  
月 出  
月 入 10:31  
月 齢 21.9